

OMC事務局 〒560-0085 豊中市上新田4-16-1-33 合原 一夫 TEL06-6833-9227  
 広報編集局 〒573-1171 枚方市三栗1-18-20 前田 茂夫 TEL072-850-5781  
<http://www.ne.jp/asahi/smaeda/12/>

平成20年7月 (2008年) No.5 1 1

## 第48回OMC映像フェスティバル 11月5日(日曜日)に会場確保しました 今年の作品選定はうれしい悲鳴になりそう

恒例のOMC映像フェスティバルは今年も大阪市立中央会館へ3ヶ月前の7月5日に申込みに行き、くじ運よく10月第1日曜5日にホールを確保することができました。これからは、この日を目標に準備をすすめて行くこととなります。7月例会後の8月2日(土曜18時)よりの幹事会で、上映作品編成会議を行いプログラム印刷に着手します。

前年度8月～今年6月までの例会作品をDVDによって再拝見していますが、良い作品がそろっていてどれを上映してもはずかしくない立派な作品が多く、選別するのに苦労しそうです。特徴として10分を越す良い作品が多いということです。上映可能時間は13時から16時30分、遅くとも40分までには終了しなければ後片付けの時間がとれません。開会挨拶、休憩司会の時間を除きますと作品上映時間は2時間40分程度に収める必要があります。予備調査を行いましたところ、作品数は15本、少し無理して17本というところでしょうか。いずれにしても7月例会作品を見た上での決定になりますが、今年は選定に苦労しそうです。それにしても他のクラブでは上映作品が少なく苦労されていることをよく伺います。この点選ぶのに苦労する、とは何とぞいたくな悩みか、ご熱心なOMC会員の皆さんに感謝しております。今年も黒田先生ご好意による1万ルーメンという驚異的な明るい映写環境のもと、ほとんどがハイビジョン作品という豪華なOMC発表会を、今から楽しみです。(合原)

### 7月例会のお知らせ

7月例会は第4土曜26日18時より、大阪市立難波市民学習センター(JR難波駅上OCATビル4階)にて開催します。フェスティバル作品候補はこの例会上映作品までにて締切りです。外は暑い盛りですが会場は冷房が効いていますので冷え過ぎ対策をどうぞ。皆様のご来場をお待ちしています。

■幹事の方へ：8月2日(土曜)18時より第1会議室、ご出席を。

## ■左義長撮影会作品

### お世話になった方にDVD贈呈

近江八幡左義長まつり撮影会では、事前の製作場面の撮影に、第11区のお世話人さん方達や祭り当日のお宮さん、物産館の方の特別な図らいを頂きました。そこでお礼として関係先へDVDを贈呈しました。玉井さんの贈呈用にまとめられた21分の映像1枚と前田、合原、江村、進藤の各作品をまとめた1枚の2枚セットになったものを、進藤氏が作成して頂きました。玉井氏がそれぞれの関係先へ行かれて贈呈し感謝されたそうです。進藤さんには大変お手数おかけしました。有難うございました。

■関さんがハードディスク方式のカメラからの映像の編集方法をくわしく解説(レポートの後にある)

カメラ屋さんへ行ってもいまやテープ方式のカメラは片隅に追いやられています。又知人友人もカメラ屋さんにおすすめられてハードディスク等のカメラを買い、それで何とか編集してくれないか、という相談を受けますが、今のところ断っている状態です。時代の変化は目まぐるしく、編集も容易になってきたようです。関さんの解説(体験談)は少し難しいですが何か明るい先が見えてきた思いです。しかし、この世界、どんどんかわりますねえ。

### 6月例会レポート

6月例会は28日、梅雨の季節でした。今年は九州をはじめ集中豪雨が多いようです。会場は冷房が効いていて寒い位です。外のむし暑さとの違いで体調に要注意ですね。ご熱心な会員さんで今月も盛会でした。

今月の司会は有村氏、書記、関氏、上映係、増池、江村、河合の3氏、受付兼照明係は渡辺、宮崎の各氏で進行しました。

■出席者：有村、井上、江村、岡本、奥、上総、紙本、河合、黒田、合原、進藤、関、上田、玉井、西井、錦、西村、華岡、前田、増池、松本、宮崎、森口、森下、安居、山本、吉岡、渡辺の28氏に作品17本でしたが1本は時間の都合で次回まわし。

■上映作品(今月の講評は関世話役です)

#### 1. 近江八幡左義長祭り考 (DV) 玉井 さん 13分

7年前の「辰年」に45分の長編を制作された経験がお有り、さすがに撮るべきツボは心得たもの。撮影会では代表撮りHDVテープを頒布したが、作者のみDV。対象は同じでも撮り方、とくに構図が微妙に違う。見る者をぐいぐい引き込む説得力は作者のみごとな構成技術から生れてくるのだろう。取材に協力して頂いた第十一区の人やお世話になった方々へ贈呈するお考えから原作は18分を越えるが、作者の申し出により上記の時間で打ち切り、後半は来月に期待と言うことになった。

#### 2. 矢田寺(あじさい寺) (ワイド) 増池 茂さん 7分40秒

がちりと三脚で構え、落ち着いて撮っておられる。タイトルバックで山門にわずかにティルトダウンした他はパンやズームは一切なく終始安定した画面が続く。アップやロングの使い分けも的を射ている。別段構図的破綻は見当らない。しかし単調。この題材でこの構成なら5~6分だろう。BGMもその単調さに拍車がかかっていたように思う。

#### 3. 名水紀行 天の岩戸 (ワイド) 森口吉正さん 8分20秒

お伊勢参りが最近またブームだそうだ。天の岩戸と呼ばれるところは全国に十数箇所もあると聞くが、伊勢周辺だけでも三箇所、いずれも天照大神と素盞鳴尊の逸話が語り継がれているが、神話だから何箇所でも容認されるのだろうか。それはともかく作者が訪れた天の岩戸は伊勢神宮から南東へ車でおよそ10km。磯部町恵利原の山の中、いかにも神話に相応しい佇まいにある洞窟に「名水百選・恵利原の水穴」の看板が掲げられていた。こんこんと清水が湧きだし、鳥居としめ縄でここが神域の一部と判る。作者の名水シリーズもかなりの数になるが、いつも安心して見ていられるのがなにより。とにかく「名水百選」。まだまだ続くのだろう。

#### 4. 宇治散策 (HDV) 奥 宏さん 7分47秒

作者のたどったコースは京阪宇治駅から宇治橋渡り平等院、浮島と中ノ島、朝霧橋

を渡って宇治神社、宇治上神社、そしてさわらびの道を通り源氏物語ミュージアムでEND。途中の映像にあった紫式部石像、宇治十帖の石像、ミュージアムなどは最近建立されたのではないだろうか。総じてロングが多くナレーションの説明も表面的。バスツアーの一行が出てきたが、なんだかその一員になって列の後を追っていつているような映像構成を感じた。

5. 随想・あしと水鳥と季節 (HDV)  
上総修一郎さん 9分49秒

とある池で見せる秋の表情。鴨の集団が右へ左へさも用ありげに水面を移動する。葦を敷きつめた浮島ではテルトリー合戦が始まる。その動きにあわせ擬人化したセリフでおもしろおかしく表現したアイデアはすばらしい。随想たる所以か。

画面は一転桜の季節。てっきり渡り終えたと思っていたあの鴨たちはまだ遊び戯れていた。餌が豊富で渡りを忘れたか、その実態は解らないまま。

6. 大阪駅周辺が変わる (HDV)  
安居利次さん 6分35秒

聞けば、超広角アダプタをヨドカメで買い求め、その場で装着して目の前の大阪駅で試し撮り、それを作品にしたというからものすごい省エネ。作品の重要な部分を占める大阪駅の近未来CG映像も現場調達とか。数年後に起こりうる梅田のデパート戦争にチクリ批判も忘れていない。もしこの一連の行動が計算ずくとしたら作者はもう天才というほかない。

7. 左義長はええ祭です (HDV)  
西井 学さん 9分50秒

撮影会コンテストに出品しなかったのは自身のための映像も含めた膨大な素材を前に、代表撮りの責任上、会員に配布したものと同一素材を使用するかどうかで悩み考え、そうこうしている内に時期を逸してしまったのではないだろうか。あげく作者は最も難しい構成方法を選んだ。作品の題名は第十一区の総神役・中上肇氏のインタビューで、左義長について中上氏が語った締め括りの言葉。この一言が左義長のすべてを象徴していると感じたのは筆者も同じ。作品は序盤でケンカのハイライト場面を数カット見せて、あとはすべてインタビュー

だった。もちろん言葉に乗せて製作現場の映像を張りつけてあるが、言葉そのものはノーカット。そして終りは「…ええまつりです」の中上氏の映像に奉火を重ねていたが、どこかすっきりしない。ラストだけは映像を重ねないで中上氏のみか、声は残して奉火場面にするか、のどちらかだろう。

8. 春日山城 (HDV)  
紙本 勝さん 10分35秒

上越市中屋敷に残る国指定の史蹟。戦国の武将、上杉謙信の居城として有名。標高189mの蜂ヶ峰に石垣を築かず自然の起伏を巧みに活かし空堀や土塁で防御を固めた堅固な城塞。麓の林泉寺に謙信の墓があり、宝物館には往時を偲ばせる品々が展示されているが撮影禁止とか。にもかかわらず甲冑や謙信自筆の額など詳細な映像が見えたがどんな方法で撮ったのだろう。

189mの山城を登るのはかなりきついが、数回は自らの姿も撮っていた。つまりその間は二回往復したことになる。作者の健脚振りにはただただ驚くばかり。ナレーションも実に快調、事前によく勉強されていると思った。頭脳明晰、強靱な体力と精神力は日頃の生活態度によるものか。見習わなければならない。

9. 明日を目指して (HDV)  
西村光雄さん 11分15秒

過去10回以上はネパールを訪れている作者。若者との交流もあり、回を重ねるごとにその人脈は広がっているように思う。今回はネパール人の友人の息子さんが来日して福岡のアジア日本語学校で日本語を学ぶという話。ネパールは貧しい国だが若者たちは真面目だ。アジアの先進国日本で勉強してネパールのために尽くしたいと言う希望を多くの若者たちが持っている。彼らは、まずネパールの日本語学校で基本を学び、日本の専門校で本格的に勉強、力がつけば日本の大学に入るのが目標。作者の友人の息子さん・ピネッシュ君もそんな若者の一人で、みごと福岡の日本語学校に入学を果たした。その寄宿舎に作者が訪問。部屋は狭いが設備は一応揃っていて結構快適らしい。博多どんたくに参加して市民との交流を深める努力も伺えた。日本とネパールのためにもこういう若者がどんどん巣立っていくことを期待したい。

10. 離島紀行 (HDV)

渡辺雄史さん 7分15秒

のんびり八重山諸島と副題がつく。早速水牛車で遠浅の海をのんびり由布島へ。亜熱帯植物園。西表島ではマングローブのジャングルを見学のあと竹富島に渡る。人口僅か332人だが、交通信号がひとつあると言うのが面白い。石垣島の民族資料館は先住民の生活用品や漁具、砂糖きびの搾り機なども展示され、参考になったのでは。そのあと動植物園でリスザルと戯れ、グラスボートで珊瑚礁を堪能。都会の喧騒を離れ、ゆったりした時間を過ごされてさぞ満足だったとおもう。

11. 八戸三社大祭 (HDV)

河合源七郎さん 8分14秒

前月は煌々とした照明と極彩色で夜の町を圧倒する山車だったが、今回は昼間の行列行事。まあ、いろんな扮装、さまざまなパフォーマンスがあって、綺麗だけでなく観客も見せる側も楽しい祭りであることが判った。カメラ位置が限られたせいか夜間のような迫力には欠けるが山車の緻密な作りが興味を引く。東北の祭は北へ行くほど派手で大がかりになるような気がする。

12. YOSAKOI 国士舞双 (HDV)

江村一郎さん 6分

土佐料理の「さわち」を「皿鉢」と書くのだそうだ。3月9日はその皿鉢祭の40回目。さすがに高知、なにか行事があるとよさこいが飛び出すらしい。それは派手な太鼓と銅鑼の音と少女たちの嬌声で始まった。白地に黒の大きな輪と目結の紋を染めあげた和風のユニフォームが道いっばいに舞う。手持ちの揺れ。ピントがずれる。人が横切る。車が通る。そんなことはいっさい気にしない。まさにYOSAKOI作者の神髄を見た。白いベレーの女の子、意に反した動きだったのか途中で追うのをあきらめた格好だ。

13. 御影 弓弦羽神社地車祭 (HDV)

井上勝彦さん 7分47秒

都会のど真ん中に古くから引き継がれてきた由緒あるだんじりが8基もそろそろ祭があったとは迂闊にも知らなかった。阪急御影駅のすぐ近くにある神社で「ゆづるは」と読む。昔、三韓征伐を終え帰還してきた神功皇后が近親者の陰謀により攻められ、

一旦は降伏と見せかけたが、敵の隙をみて髻(もとどり)から弓弦を取り出し反逆者を成敗。その弓弦を埋めた場所が弓弦羽神社で、反逆者の首領ら6人の首と甲冑を背後の山に埋めたのが今の六甲山というお話。それはさて置き、5月3日と4日は弓弦羽神社のだんじり祭。ほとんどが修理や改修はされているが元は明治・大正時代に建造されたものとか。宮入りで勢揃いした光景は壮観。曳き回しするとき勢子役の女の子たちの行動が実に統制されているのに感心した。せっかくの奥さんのナレーションだが現地音に消されて聞き取り難いのが残念。いつものグーグルアースもなかったが、撮影会以外で作者の行事記録を拝見したのは初めての気がする。

14. 相川宵乃舞 (HDV)

進藤信男さん 9分50秒

昔の佐渡は流人の島だった。金鉱が発見されてからは罪人はもとより町のならず者まで送り込まれていたと言う。そして時の権力者と対立した高貴な人も多々流されてきたらしい。そのなかに日蓮上人や世阿弥がいたが、故に今なお島の人々は信仰心が厚く、娯楽としての能が盛んだ。佐渡を語るのに上記の歴史は欠かせないが、作品の主題は踊り。着流しに編み笠、哀愁を帯びた音曲と、ゆっくり踊る姿はどこか風の盆に似ているが胡弓の音はない。踊りに複雑な振り付けはないので容易に飛び入り参加できるらしい。この時期は佐渡を訪れる観光客が最も多いと聞く。

15. 近江八幡左義長まつり (HDV)

前田茂夫さん 14分42秒

撮影会コンテストでみごと最優秀賞に選ばれた作品。前月号ニュースに的確な批評が掲載されているのでここでは省略する。

16. ヒヴァ (HDV)

山本正夢さん 8分50秒

まず美しい砂漠の夜明けから始まる。石畳を歩く女性のシルエットに魅せられ、しばしうっとり。ヒヴァとは、中央アジア・ウズベキスタン西部、キジルクム砂漠の中にある小都市。周囲約2kmの城壁に囲われた地区はイチャンカラと呼び、まるごと世界遺産。モスクやミナレットは青いタイルにアラベスク文様が輝いていた。「民族を知りたいなら市場に行け」と言われるが

作者はどの国に行っても当然のように必ず市場を撮っている。目をひいたのは女性の服装。チャドルはおろかスカーフさえ着けてない人が多いのに驚いた。イスラム原理思想もここには及んでいない気がする。

ともあれ私たちに未知の国と風物で楽しませてくれる作者。次回はどこの国のどんな景色が出てくるのか。

もう一作、有村さんの「世界を巡る旅」を予定していたが、時間切れで次回まわしになった。

**AVCHDがほんまにできるでー！！**

**関 剛**

いま電気屋の棚に並んでいるビデオカメラの記録メディアは、どのメーカーもDVD、HDD、メモリーカードが主力。テープ式はなぜか店の片隅に追いやられている感じです。

すでにビデオサロン誌などでご存じのように、アマチュアのパソコン編集には不向きとされていた上記メディアで記録された映像も、カノープスから発売されたADVCHD50という変換アダプタをキャプチャー時に経由させることにより、いままで使ってきたテープ式と同じタイムライン上で編集可能になりました。ただし編集ソフトがカノープスであることが条件のようで他のソフトで使用可能かどうかは私には解りません。

#### ①ADVCHD50を使った場合

ADVCHD50（以後HD50とします）は巾153mm、奥行153mm、高さ23mm、重量400gの平べったい弁当箱のような形で、背面にHDMI入力とIEEE1394出力があります。他にACアダプタ入力もありますが通常は使いません。

HDMI端子はソニーのHC3以後のカメラ、それに最近のパソコン、薄型テレビには必ずついています。HD50の使い方は簡単です。CDでツールをインストールという面倒なことはしません。まずカメラとHD50をHDMIケーブルでつなぎます。次にHD50とパソコンをHD50に付属のIEEE1394ケーブルで繋ぎま

す。以上で準備OK。あとはパソコンを起動し、プロジェクトを立ち上げ、いつもと同じ要領でキャプチャーを開始しますが、HD50ではカメラの制御はできませんので、パソコンのキャプチャーが始まったらカメラの再生ボタンを押してください。

HDVテープの場合、通常は撮影ボタンのIN、OUTをパソコンが感知し、カットごとに分割してクリップに配置しますがHD50を中継すると制御機能が働かないので、中止ボタンを押さない限りどこまでも一本で繋がったシームレスになります。編集画面のバッチキャプチャーも通用しません。最近のカメラはリンクやアイリンクも付いていませんので、HD50を介して取り込む場合の自動制御は難しいようです。

カノープスダイレクトショップでADVCHD50を購入したときの価格  
99,800円（税別）

#### ②HDRECSを使う場合

7月3日に発売になったばかりで詳しいことは解りません。HD50のようなカメラとパソコンを仲介するいわゆる外付けではなくパソコンのスロットにボードを取り付ける内蔵型のハードウェアです。

1920X1080でも解像度はそのままAVIファイルにキャプチャーできるそうです。クリップファイルは自動分割されると思います。カメラからはHDMIケーブルで取り込みます。付属CDからインストールするので、ある程度パソコンに詳しい人に立ち合ってもらう必要があります。

カノープスダイレクトショップでHDRECSを購入したときの価格

95,000円（税別）

#### ③アッ！と驚く秘密のウラわざ本邦初公開

じつはこの情報源は黒田先生から頂きました。6月例会の帰りの喫茶店で「今月はニュース原稿といっしょにHD50の試用記事も書かなければならないんです」とお話ししたら先生が、「USBコード一本でできる方法もありますよ。手順を録画してあるので送ります」という事で、急遽この原稿も書き方を変更することにしました。

①と②は高価なコンバーターやハードウェアが必要ですが、ここではUSBコードが一本あればOK。たったそれだけです。但しEDIUS Pro4の最新バージョン

ン4、61であることと、カノーパスAVCHDコンバーターを予めインストールしておく必要があります。AVCHDコンバーターは、カノーパスのホームページからダウンロードできます。EDIUS Pro 4、61をダウンロードするとAVCHDコンバーターも付属しているので、同時に開いておいてください。デスクトップに「AVCD2HQ」「AVCDPRV」という丸い赤色のアイコン2個と「HQCodec設定」という縁が黒の四角で中が赤色のアイコンが1個、合計3個のアイコンが追加されているはずです。

まず撮影が終わったAVCHDカメラを用意します（私はソニーHDR-SR12・ハードディスク方式120GBを使用）カメラとパソコンをUSBケーブルで繋がします。パソコンを起動。カメラの液晶画面を開いてスイッチONにします。すると液晶画面に4個の長方形のボタンが現れますから、左上の「HDDの形の絵とUSB接続」と書いてあるボタンを押します。

すると液晶画面が変わり「接続中・USBケーブルを抜かないでください」と表示されます。つぎにパソコンの「マイコンピュータ」を開きます。すると画面の一番下に「リムーバブルディスク（H）」というアイコンが追加されているので確認してください。そしてこのアイコンをダブルクリックします。すると「AVCHD」と「DVIM」の二つのフォルダーが出ます。

「DCIM」はそのカメラで撮った写真のフォルダーです。ビデオの場合は「AVCHD」フォルダーを開いてください。すると「BDMV」のフォルダーになり、これもダブルクリックします。フォルダーが3個と認識されないファイルが2個出ていますから、その中の「STREAM」というフォルダーを開きます。すると「丸にAVC」と書かれたアイコンがずらりと並んでいる画面になります。アイコンの下に0000で始まる番号がついています。つまり撮影順に分割されているのがわかります。ただ、これはアイコンですからどんな映像かはまだ判りません。これをHQコーデックでAVIファイルに変換します。「AVC」アイコンを一つずつダブルクリックしてもかまいませんが、アイコンをデ

スクトップの「AVCHD2HQ」にドラッグ&ドロップしてもOKです。少々重くなりますが複数のアイコンをドラッグすることも可能です。つまりこの作業はHDV編集の「AVIファイルに変換しながらキャプチャーしているのと同じです。

進行状態を示す表示が消えたらキャプチャーは完了ですが、まだ終わっていません。次はデスクトップの「AVCHD2HQ」をダブルクリック。「AVCHD2HQ音声出力設定」ダイアログで、ラジオボタンが2ch（DownMix）になっているのを確認し「OK」つぎの「フォルダの参照ダイアログ」で保存場所を選び「OK」つぎの「EDIUS実行中の処理を設定します」は、どちらでもかまいませんが一応「デフォルトフォルダへ保存」にして「OK」で、キャプチャーはすべて終了です。タスクバーの「ハードウェアの安全な取り外し」から「…ドライブ（H）を安全に取り外します」をクリック。すると並んでいたアイコン画面が消え元のデスクトップに戻ります。カメラの液晶画面はまだ接続中になっていますので「終了」を押し、次に出る指示の、パソコンからの取り外しはもう終わっていますので「はい」を押します。カメラはもう用済みです。編集は今までどおり、タイムラインを起動したらクリップウィンドの上の「クリップの追加」から先程保存したファイルを呼び出し、タイムラインに張りつけてください。

1920X1080のフルハイビジョンも普段どおり編集できますが、スピードエンコーダーで「m2t」に書き出すときは「フル」には対応していませんのでその場合はタイムラインの上の保存ボタンの右横にある「下向き三角」をクリック「プロジェクトの設定」から「現在の設定を変更」を選び、プロジェクト設定ダイアログから「出力フォーマット」で「1440X1080」を選択し「OK」。これで通常の方法でテープに書き出せます。

以上、図解もなく判り難いと思いますが不明の点があればお問い合わせください。可能な限りお答えできるよう努力します。

黒田先生にはたいへんお世話になりました。心よりお礼申し上げます。